

第4回 市営バス事業あり方検討会議（会議録）

日 時：平成27年7月15日（水）15：00～16：20

場 所：特別会議室A

議 事：1 市民アドバイザー意見について

2 市営バス事業あり方検討会議「報告書」（骨子）

第Ⅰ章 経営計画の取組内容及び結果の評価・検証

第Ⅱ章 課題と対応策

①安全・安心な運行の確保 ②地域社会への貢献 ③収入の確保

④人材の確保 ⑤業務の改善

第Ⅲ章 今後の経営形態について

3 今後のスケジュールについて

〔凡例〕 ○印：委員、専門アドバイザー □印：事務局

議事1

市民アドバイザー意見

□市民アドバイザーに意見を聴取した内容を説明。

議事2

市営バス事業あり方検討会議「報告書」（骨子）

第Ⅰ章 経営計画の取組内容及び結果の評価・検証

○「丁寧に説明し、理解を得ていく」となっているが、普段から自治会とかPTA協議会とか色々な団体と接点・チャンネルは持っているのか。恒常的に意見交換というか交通局のPRを行ってはどうか。

□今後は地元の自治会等と組んで、市営バスの応援団のようなものを作り、普段のお付き合いを大事にしたいと思っている。

○PTAの方は、理解していただければ、機会があればバスに乗ろうとなると思う。応援団を作っていく必要はあると思し、理解を進めることが大事だと思う。

○普段の接触というのは非常に重要な観点だ。区役所にも色々相談して、定期的に説明できる機会があればいいと思う。

第Ⅱ章 課題と対応策

【地域社会への貢献】

<不採算路線の維持>

○今回、「地域社会への貢献」が、新たに設けられたことが大きなポイントという気がする。多くの公共交通事業、公営・民間のバス事業者が本当に厳しい中で、どちらかという不採算路線はカットしていくという流れがある中で、不採算路線を維持していくんだという大きな決意表明であり、評価できる。

○「不採算路線の維持」となっているが、今度の5年間の中では、路線をなくすとか見直すとかいうことは考えていないのか。

□一つの路線を丸ごとなくすことは今のところないと思う。ただし、路線の再編において、今まで走っていた短い区間など見直すということは考えられる。

<ふれあい定期制度の促進>

○「促進」は促すことなので、自分たちでやっていることに対しては「推進」という言い方のほうがいいのではないか。ふれあい定期の利用を促進していくという書き方であればいいのだが。

□表現をしっかり考えたい。

<通学支援便の運行>

○「地域社会への貢献」のなかで、「通学支援のあり方等について」という文言がわかりにくい。表現を検討して欲しい。

○通学支援に限らず、地域公共交通というものが重要なものであるという認識が高まってきているというのは間違いないと思う。

<子育て支援制度の導入>

○妊婦運賃を導入しているバス事業者は全国どこにもないと思う。運用については検討する必要があるが、積極的にアピールすることで、北九州市は子育てに優しい街ですよというイメージアップにも有効的な策ではないか。

○交通局では幼児2人無料はいつからやっているのか。

□幼児2人無料については、平成14年6月からやっている。妊婦に対する割引の運用は、北九州市でもマタニティマーク入りストラップを既に配布しているので、対象者の確認に活用できるのではないかと考えている。

【収入の確保】

<全体>

○ICカードやその他の施策それぞれについて、この施策によってお客さんが増えるのか、それとも単価が増えるのかといった根拠データがあれば、より信頼・納得出来るものになると思う。

○利用促進策を講じる場合は、利用が増えるという前提である程度収支に影響してくる整理だが、どのような根拠によるものか整理する必要がある。

○マーケティングが基本になると思う。ある程度のバックデータ（マクロ統計、推計等）、こういう一定条件の下でシミュレーションしたらこういう結果となったというデータで十分である。

□一つ一つの施策に対する需要の増加をデータとして把握すべきだと認識はしており、計画作りの中で出来るところはやっていきたいとは考えている。また、公共交通機関、公営バス事業者として、実施すべき取り組みを実施することにより、市営バスのイメージアップ・信頼を含め、全体として需要の掘り起こしに繋がっていくと考えている。

＜ＩＣカードの相互利用化の検討＞

- 相互利用型のＩＣカードを近隣の軌道系事業者でも今年から導入される。公共交通のネットワークという観点から、もう少し早く取り組んだ方が良くはないか。
- ＩＣカードは相互利用型、片利用型のどのパターンがいいのか。現在のカードを利用するのは難しいのか。
- 交通局のシステムと全国型のシステムの基盤が違う。現在のカードを活用した方式を実際にやっている事例がないため、どれくらい費用がかかるのかわからない状況である。
- 利用者は今の割引率が気になると思うので、今までの利用者のことを考えると、片利用の型で移行できれば一番いいと思う。導入するＩＣシステムのタイプが違えば、長期収支も変わってくる。
- 相互利用型の場合、プレミア率のこともあるが、例えばＩＣカードの一日乗車券が使えなくなるといったデメリットも考えられる。そういったところも含めて検討したい。
- 今のカードシステムの更新時期はいつなのか。
- あと６年くらいは持つということで設計はしているが、あと６年という猶予はないのではないかと考えている。

第Ⅲ章 今後の経営形態について

- これまでの議論を踏まえ、課題の対応策が適宜実施されたならば、現在の経営形態においても、中期的に健全経営での持続可能性が見込めると考えている。
- 管理運営委託方式などの他の経営形態への転換についても検討したが、市営バス事業の場合、いずれの形態もメリットが乏しいと考えられる。
- 課題への対応策を踏まえた新たな５ヵ年計画を交通局で策定し、公営事業者としての使命を果たしていきたいと考えている。
- 今後の経営形態も含めて、報告書の骨子については、全体的な整理に問題はないと思う。

市営バス事業あり方検討会議「報告書」（骨子）全体について

- 課題の対応策の多くが、「検討を行う」となっているが、これから経営計画を作っていく中で、数値目標とか、いつまでにやるとか、スケジュールとかはいれるのか。もう少し数値目標等を入れたほうが良いのではないか。
- 計画では、年次計画的なところも考えなくてはいけないと思っている。

議事３

今後のスケジュールについて

- ８月上旬に第５回会議を開催し、報告書案を精査いただき、８月下旬に公表したいと考えている。
- スケジュールについては事務局の案に沿ってやっていただきたい。